

2010年度

人文科学研究科・英文専攻・修士論文作成・提出上の注意事項

1. 論題：抽象的な一般論にならないよう、十分に問題意識を具体化し、対象を限定する。
2. 体裁：表紙はA4のファイル。用紙はA4判の用紙を使用する。
3. 構成：タイトルページ、目次（ページ数記入）、(序論)、第1章、第2章、…第n章、(結論)、注、引用文献表。各章にはタイトル(章題)をつける。注は脚注でもよい。
4. 枚数：本文の長さは、テーマや指導教員の方針によって異なるので、指導教員とよく相談をすること。
5. 執筆言語：英語または日本語。指導教員の指示に従うこと。博士課程への進学を考えている場合は英語での執筆が望ましい。英語で執筆する場合は、必ずネイティブ・チェックを受けること。
6. 書式：原則として MLA, LSA, APA を基準とする。ただし、指導教員の指示がある場合には、その限りではない。
7. 引用上の注意：直接、間接に引用した部分には、必ず出典を明記する。いろいろな場合があるので、自分で確認すること。文学関係の論文は、*MLA Handbook for Writers of Research Papers* または邦訳『MLA英語論文の手引き』（北星堂）を参照するとよい。
 - 短い引用（3行以下）の場合は、本文中に入れる。
 - 長い引用（4行以上）の場合は、前後に各1行ずつあけて、各行本文よりさらにインデントし本文から独立させる。
 - いずれの場合も、出典は注ではなくカッコ内に明示する。
8. 論文内容に関する注意：
 - (1) 文学分野の論文においては、作品は英文原典を読み、そこから引用すること。
 - (2) 作家の略歴、作品の概要や紹介、作品の感想を述べただけのものは論文とはみなせない。
 - (3) 「日本の英語教育」という論題のもとに、自分が受けてきた英語教育について感想を述べたり、語法、用法について、他の研究者による用例をまとめただけで、研究に独自性のないものは、論文とはみなせない。
 - (4) 他人の著書の内容、意見を出典を明示せずに記載することは剽窃であり、こうした論文は不合格となる。
9. 書式、構成、内容すべて、基本的には指導教員の指示に従うこと。
10. 事務的な重要事項：「修士論文執筆届け」は所定の期日までに、修士論文は所定の期日に、所定の場所に提出しないと受理されない。期日、提出場所は、各自の責任で確認すること。
11. その他、不明な点は自分だけで判断せず、論文執筆に関しては指導教員の、提出期限や提出場所などの具体的な提出手順に関しては大学院課の指示を必ず仰ぐこと。

2010年度

修士論文の英語の添削をネイティブスピーカーの教員に求める場合の注意事項

1. 手順：事前に必ず指導教員の指導を受け、その際見つかった誤りを修正したうえで、ネイティブスピーカーの教員の添削指導を受けてください。二人の先生に、同時に同じ原稿を渡して指導を受けると、トラブルの元になりますので避けて下さい。
2. 締め切り：ネイティブの先生への提出期限は10月末です。それ以後、添削指導は受けられません。論文の一部を締め切り後に提出するのも認められません。
3. 注意事項：上記の締め切りを逆算して、指導教員の指導は早めに受けるようにしてください。指導教員とは定期的に面談をして、進捗状況を報告することをお勧めします。また、指導教員による論文指導は一度とは限りませんので、時間に余裕をもって指導を受けるようにしてください。指導教員の指導の目的は本来、論文の構成や内容についての助言です。英文チェックは事前に自分の力できちんとやってください。指導教員だけでなく、ネイティブスピーカーの教員のところにも、事前に相談にいき、スケジュールの調整などをするとよいと思います。

以上

2010 度 大学院主任
椎名美智